

門司体育館等26スポーツ施設指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和元年 10 月 7 日（月） 10：50～11：55
- 2 場 所 北九州市役所 15 階 15C 会議室
- 3 出席者 (検討会メンバー)
井口構成員、河邊構成員、田代構成員、寺崎構成員、南構成員
(事務局)
市民文化スポーツ局 スポーツ振興課
スポーツ施設担当課長、担当係長、担当職員
- 4 会議内容
○応募団体（北九州スポーツネットワーク共同事業体）より提案概要に関してヒアリング。
（提案書の内容につき説明）
○応募団体（北九州スポーツネットワーク共同事業体）との質疑応答。

(構成員)

- ・組織について、3社で共同事業体を組むことになることによるメリットとデメリットを教えてください。

(応募団体)

- ・構成企業は、現在、再委託先としてプールの監視業務を行っているため、市から指定管理者に指示があった場合、そこから指定管理者から再委託先への指示をしていた。今後は並立の関係になるため、市からの指示などの体系が分かりやすくなる。
- ・デメリットは、特にはないと考えている。

(構成員)

- ・プールの管理について、安全管理体制はどのようにしているか？

(応募団体)

- ・全国で起きた事例などは社内で共有している。
- ・プールの施設毎に身長や年齢での入場制限や、浮き輪などの器具の使用を認めるか判断している。
- ・ハード面では夏期期間が始まる前の準備段階での事前点検を徹底している。

(構成員)

- ・プールに関連して、構成企業はどのように考えているか。

(応募団体)

- ・現場の監視員には水溜まりでも溺れるとの危機意識をもって対応するよう、毎朝の朝礼などで教育している。また、勤務開始後と営業終了後の報告を義務付けている。

(構成員)

- ・提出資料にある関心表明書は、強制的に提出させたものか。逆に添付しない方が良くらいである。

(応募団体)

- ・強制的に提出させたものではないが、次回応募の際には注意する。

(構成員)

- ・代表企業は、直営のスポーツクラブを展開しているが、公営施設との違いと共通点について伺いたい。

(応募団体)

- ・公共施設は、誰でも使える施設であること、またそのように利用していただける環境づくりが大切と考える。
- ・一方で、民間施設は会員制を採用しているなど、来たい人が来て使うもの。健康づくりの面では共通する部分があると思う。
- ・現場レベルでは、公共施設を利用する人とは一期一会のため1日1日を大切にし、帰る際に笑顔で帰ってもらうよう心掛けている。

(構成員)

- ・現場をサポートする本社の専門部署にどのような人がいて、どのような内容の役割があるか、北九州市の施設の特特殊性、公共施設のあり方を踏まえて、教えてほしい。

(応募団体)

- ・代表企業は、受託事業部で運営部門、開発部門、総括部門がある。運営部門では契約やコンプライアンスの順守、開発部門は営業、総括部門は各施設の巡回などの業務を行っている。
- ・北九州市は、利用料金制を採用していないため、使用料は全て市の歳入になる。全国では少ない方なので、市の収入を増やすことが目標であることは、他とは違う。また、管理施設が多く、運営委員会の制度があることも他とは異なるところである。
- ・高齢化や人口減によりスポーツの役割が大きくなってきていると感じている。公共施設においては地域で繋がることや街づくりの面から期待されていることが多々ある。

(構成員)

- ・直営のスポーツクラブと公共施設との違いの面で、SNSの活用はどのように考えているか。

(応募団体)

- ・HPのリニューアルや、SNSの活用は現在の社会の仕組みから積極的に行う必要があると認識している。北九州市においては各区役所でSNSのアカウントを持っており、無料イベントの発信など公のフォロワー向けの広報を活用したいと考えている。

(構成員)

- ・使用料が、市の収入になることに疑問はないか。

(応募団体)

- ・公募要件に記載があり、納得した上で提案している。自主事業の収益は指定管理者のものになるため、特に不満はない。

(構成員)

- ・施設を利用してもらおうきっかけづくりを行っているか。実際に効果は出ているか。

(応募団体)

- ・新門司体育館では、近隣の福祉事業団の展示品を置いたり、施設開館10周年の際には写真展を実施したり、体育館利用者以外にも施設を使う機会を作り、それがスポーツ施設利用に繋がることを期待している。
- ・小倉北体育館では、市の子育て支援に即して赤ちゃん駅や相談会を実施した。多くはないが参加した両親が施設利用にも興味を持つきっかけになったと考える。

(構成員)

- ・どこの業界でもクレームは付きものであるが、クレームの内容は変わってきていると感じているか。

(応募団体)

- ・自分本位で言う人が増えたと感じる。再委託先の運営委員会が管理する施設では昔ながらの考えで対応する場が多いが、クレームが起きた際には初動対応が重要だと考え、すぐに現場に行きお客様目線での対応を心掛けている。

(構成員)

- ・作業員の作業日報はあるか。

(応募団体)

- ・プールは作業日報がある。他の施設では利用者数の集計用と業務引継ぎ用に日報がある。

(構成員)

- ・提案書に施設のクセを熟知したとあるが、クセとはどのようなことか。

(応募団体)

- ・運営委員会の従業員は年上の方が多く、昔ながらの考えや地域の特徴といった固定概念を持って対応する方がいる。

(構成員)

- ・構成企業は、維持管理について施設の老朽化などの“施設のクセ”をどのように考えるか。

(応募団体)

- ・1級建築士など、資格を持ったものが行う法定点検などにより優先順位を付けて実施している。また、LED化などにより最小限の費用でかつ安全を担保できるよう対応している。複数施設を管理することになるため総合的に判断し対応する。

- 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換。

(構成員)

- ・実績などがあり、疑いなく管理を任せられると思う。
- ・ただし、マーケティングの準備提案やその実績があるからこそ、全国と北九州市との取り組みとの違いをもう少し具体的に示してほしい。

(構成員)

- ・企業間の役割分担やプレゼンテーションはよかった。
- ・お客様目線は評価するが、スタッフ同士のコミュニケーションが取れているかどうかは疑問がある。

(構成員)

- ・全国の事例を北九州市に落とし込んだような提案だが、基本的には細部まで行き届いた提案である。

(構成員)

- ・利用者向けの取組み、地域密着の取組みは評価できる。
- ・総括責任者の能力は評価できるが、属人的な対応になっているとすれば、人材育成も必要であると感じた。

(構成員)

- ・勤続年数から経験豊富な担当者が揃っている。
- ・女性活躍の観点から総括責任者が頑張っていることは評価できる。

5 検討会としての検討結果について

各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各審査項目の評価レベルを下記のとおり、決定した。

1 指定管理者としての適性のうち、

- (1) 施設の管理運営に関する理念、基本方針については、4
- (2) 安定的な人的基盤や財政基盤については、4
- (3) 実績や経験などについては、4

2 管理運営計画の適確性に関する有効性のうち、

- (1) 施設の設置目的の達成に向けた取組みについては、4
- (2) 利用者の満足度については、4

効率性のうち、

- (3) 指定管理業務に係る経費については、3
- (4) 収支計画の妥当性及び実現可能性については、3

適正性のうち、

- (5) 管理運営体制などについては、4
- (6) 平等利用、安全対策、危機管理体制などについては、4

- ・他の自治体でも多くの指定管理施設を管理しており、指定管理者として十分な実績があることやその実績を生かした利用者向けの取組み、地域密着型の取組みは評価できる。以上のことから、門司体育館等26スポーツ施設の業務を行うのに十分な適格性を有していると考える。

- ・付帯意見については、特になし。